



越のむらさき

江戸時代に始まった醤油造りは190年近くになる。明治10年竣工の社屋（登録有形文化財）は今でも健在で長岡市の第一回都市景観賞を受賞。旧三国街道が山路に向かう道と分岐する場所で、目印のお地蔵様はいつも柔和な笑顔を浮かべ、道行く人々を見守っている。事前予約で蔵見学も可能。定休日：土・日・祝
☎0258-32-0159 <http://www.koshi-no-murasaki.co.jp/>

秋山孝ボースター美術館長岡

地元出身の秋山孝作品の展示や折々の企画展、美術館大学も開催される。
開館日：金・土・日 要事前予約
☎0258-39-1233
<http://apm-nagaoka.com/>



吉乃川酒蔵資料館「瓢亭」

瓢箪が吊るされた館内には、昔の酒造用具などが展示され、酒造りは動画での解説がある。試飲（無料）も充実。
入場無料 不定休 事前予約が必要
☎090-2724-9751



長谷川酒造

創業天保13年（江戸時代）通りの面したレンガ造りの建物は大正時代に建てられた麹室だ。主屋は明治19年に創建され、大正13年に改修され現在も事務所として使用されている。長谷川家のルーツは信州だと言われており、蔵の西側には諏訪神社が分祀されている。定休日：土・日・祝（蔵見学は不可だが小売りは可能）



香りのかにこころが懐かし風景

醸造の町 和田屋



機那サフラン酒本舗

作家荒俣宏は著書「黄金伝説」で「産業王の夢の館」と紹介した。長い石垣の内側には明治から昭和初期にかけて造られた建物群や庭園が広がる。産業王吉澤仁太郎はサフラン酒の製造販売で稼いだ金を惜しげもなく注ぎ込み「鰻絵の蔵」に代表される唯一無二の仁太郎ワールドを築き上げた。

永年の保存運動が実を結び、本舗は市民の宝として魅力的な観光施設に生まれ変わるうとしている。完成までは休日公開（GW～11月の土日休日）やイベントでの公開日に見学ができる。

※鰻絵の蔵の外観はいつでもご覧いただけます。

売店の定休日：月・水

☎0258-33-4560 <http://kina-saffron.com/>



撰田屋公園

仕込み桶をイメージしたユニークなトイレが目印。公園内の案内板には撰田屋の歴史なども解説してある。その奥の大銀杏があり、大きな忠魂碑の脇に「忠烈千古芳」と記した山本五十六の碑もある。

味噌星六

明治30年星野本店から分家した時譲り受けた土蔵は曳き屋して移築され今も味噌蔵として使用している。原料にこだわりの古式づくりの味噌は漫画「美味しんぼ」でも紹介された。

熟成が進むにつれ味も色合いも濃厚さが増す

「2年物」「3年物」も店で購入することができる。

定休日：日曜日

☎0258-32-6206 <http://www.hoshio6.com/>



歴史の町 撰田屋

長岡の市街地は、太平洋戦争で市街地のほとんどを焼失しましたが、撰田屋は老うく難を逃れました。

明浩・大正の建物が残りどこか懐かしさの感じられる景観があります。

古くからの街道や信濃川の川湊として用いていたと伝えられており、中世の武士や僧侶の簡易宿泊所「接待屋」に由来するといわれています。

江戸時代には上野寛永寺の領地に組み込まれ、ゆるい規制と恵まれた立地条件のもと、味噌・醤油の蔵元が集まりました。

現在でも五つの蔵元が製造を続けています。味噌・醤油の香りが漂うこの町を楽しくむに散策がおすすめです。

歴史のあたたかさを感じながら、ゆったりと撰田屋を満喫してください。

光福寺

戊辰戦争で長岡藩は小千谷談判決裂後この寺に本陣を置き、新政府軍が占領した榎峠を攻撃して奪還した。



旧三国街道

蔵元の建物の間を通る街道で、醸造の香りが漂う。地元の方から「旧三国街道」または「殿様街道」と呼ばれ親しまれている。



吉乃川

創業は天文17年（室町時代）酒蔵としての歴史は新潟県で最も古い。良質な地下水をはじめ酒造りの好条件にも恵まれ470余年続いている。近代になるいち早く経営の近代化に取り組み、戦後は酒造技術革新と伝統的な技術の融合を図る数々の挑戦を行ってきた。全国に先駆け麹の量産装置の開発や大型の仕込みも可能にした。

一方で「日本酒造りの基本は吟醸造りにあり」の信念のもと技術を磨き各種監評会で入賞を重ねてきた。敷地西の道路に面する常倉は大正12年の建築で鉄筋コンクリート製の蔵としては国内でもごく早い時期のものだ。

定休日：土・日・祝

☎0258-35-3000 <https://yosinogawa.co.jp/>



竹駒稲荷

愛らしい親子の狐様がユニークなこの稲荷は明治22年当時の越のむらさきのオーナーと吉澤仁太郎によって勧請された。五穀豊穡、商売繁盛、安産の神として親しまれている。

星野本店

創業は弘化3年（江戸時代）ヤマホジサンの商標で味噌や醤油を製造、これまでに全国品評会でも高い評価を受けてきた。敷地内の衣装蔵は新潟県内でも珍しい三階建。事務所に併設された店舗では醤油の利き味もでき、味噌醤油の他にも神楽南蛮味噌や漬物なども販売している。



とくご！醸造の町 摂田屋まっぴ

長岡
→
信越本線
←前川
←越後・潘谷
JR宮内駅
WC
秋山孝
ホスクー
美術館・蔵
●青島ラーメン

新喜屋団
←サラン酒までは徒歩10分
宮内商店街 雁木通り
●一福食堂
●華蔵寺
●秋山孝
●ボクノミヤ
●お弁当亭
●北越銀行
●研究所カリー
●シヨウカリー

清酒 吉乃川・常倉
旭屋
●煮卵バ
●金比羅神社
かどや団
喜味屋食堂
●営業時間のみ
●WC
機那サラン酒本舗
●営業時間のみ
●WC
味贈星六
●営業時間のみ
●WC
酒蔵資料館 瓢亭
●ひまこ

手作りみそ
●つくつく食堂
●太田川改修記念碑
みそ・醤油・漬物 まちの駅
●営業時間のみ
●WC
星野本店
●諏訪神社
●長谷川酒造
●横山歯科
●吉田医院
●喫茶ひなた
●ドラッグ

長岡藩の本陣
●長岡南
●ゴルフガーデン
●光福寺
●八幡神社
●公民館
●桶のトイ
●赤城神社
●笑顔の狐さま
●青島ラーメン
●セブンイレブン
●ガスト
●光徳寺
●百年桜
●長岡農業高校
●大光銀行

清酒 雪紅梅
●長岡南
●ゴルフガーデン
●光福寺
●八幡神社
●公民館
●桶のトイ
●赤城神社
●笑顔の狐さま
●青島ラーメン
●セブンイレブン
●ガスト
●光徳寺
●百年桜
●長岡農業高校
●大光銀行

17 町田
17 片田

摂田屋には、「酒・味噌・醤油」などを醸造する蔵が
多く残っており、麴の香りが漂う醸造の町です。
地元で「田三国街道」と呼ばれ親しまれている旧街道のほか、
戊辰戦争の際に長岡藩の本陣だった「光福寺」日本一の
銀蔵の蔵「機那サラン酒本舗」など、登録有形文化財や
歴史的建造物が多く残る、歴史の町でもあります。

長岡駅
方面



2019年3月制作

摂田屋ボランティアガイドお問合せ 長岡観光コンベンション協会